



北海道方面

道路改良の進捗と支部大會

本道に於ける道路も時代の要求につれ着々改良の歩を進めつゝあるが、既に路面の改良せられたる箇所には昨冬より今春に亘る珍らしき大降雪にも、自動車の交通を尠まず一般の視聽を聚めた、其の方法については支部内に兩三年來降雪征服委員會を設けて屢々實地研究を續けたる結果、先づ排雪自動車を運轉の後、路面上に遺る五

六寸の雪上に五噸或は六噸のローラーを運轉する時は自動車の交通に差支へなく只勾配を有する箇所にはスリップ防止の必要からタイヤには鎖を巻くか或は長野縣上田市長降醫院長の考案に成るタイヤ保護器を装置すれば大抵の場合支障を防ぎ得る事が試験され時には四噸四噸半位のローラーにても間に合うことが判かり雪中交通史上に大革命を來たしまた右のタイヤ保護器は融雪期に於ては泥除け器として最も効果あること此程に至つて證明され既に東京芝浦にて内務省鐵道省警視廳等の關係者も其の實地試験を見且つ埃除け器ともなり、兼

れて路面をも損傷しないといふので今冬頃よりは使用者も相當増加する模様である。而して今夏札幌に開催の博覽會を機とし道路改良會支部大會を開き理事幹事の出張講演其他の準備につき協議中である。

東北方面

藤波橋起工式

國道六號線、阿武隈川筋、藤波橋起工式は去る三月十三日宮城縣名取郡岩沼町に於て盛大に舉行された、架橋地點は岩沼町と亘理郡逢隈村入會六號線に繋り橋臺貳基は基礎壁式丁型鐵筋混凝土で橋脚工中、拾基は井筒基礎重力型の中空式鐵筋混凝土、六基は杭打基礎重力型中空式鐵筋混凝土で上部構造は下路式ラレントラス七連五五、〇米上路式プレートガーター拾連一八、〇米、橋面構造は混凝土床版アスファルトアロツク鋪裝とする豫定で昭和七年初夏の候

には近代交通に適應する立派な橋梁が竣功する筈で附近住民は非常の喜びを以て今から其の日の來るのを待つて居る。式は型の如く神官の修祓により始まり湯澤知事の玉串奉奠以下順次禮拜あり次で知事の式辭、内務大臣の祝辭、道路改良會長の祝電、協賛會長平間岩沼町長、同副會長松本逢隈村長の祝辭朗讀等ありて閉式、終つて竹駒神社境内にて祝盃を擧げ桝村課長、發聲で萬歳を三唱し夕刻散會した。

宮城縣の橋梁架換

昭和六年度以降三ヶ年繼續事業として施行する豫定の宮城縣下二十二橋の架替事業費百十三萬六千圓の内九十二萬三千圓を起債に求める計畫で主務省に申請中であるが年度更始も間近に迫つたので伊藤土木課長は上京して橋梁腐朽の實況より架換の必要等を詳説し速かに許可せらるゝ様陳情して了解に力めたので近かく認可される模様であるが前記起債以外の財源は關係地方の負

擔十七萬八千圓及び國庫補助三萬五千圓である。

失業救濟國道改良箇所

六年度公債支辨の失業救濟による福島、宮城、岩手各縣下の國道改良箇所及び延長は一、福島縣福島市大字磯部より信夫郡瀬上町に至る三千五百五十米。二、福島市柴町より同市柳町に至る一千米。三、郡山市永盛村境より同市富久山村境に至る二千五百五十米。四、宮城縣七北田村より遠田郡富永村に至る六千五百八十一米。五、岩手縣稗貫郡花巻町百十七米。六、膽澤郡前澤町より西磐井郡平泉村に至る七千七百三十八米等である。

北越方面

國道改修で新潟と新發田が八町近くなる

失業救濟を目的とする北蒲原郡の國道改修延長は從來二里三十五町三十間なりしも、改修後は二里二十六町十八間となり新潟新發田間約八町餘を短縮される譯であるが此工事に従事する勞働賃銀は大體一日九十錢を目標として仕事の能率に依つて支拂方を上下し得ることとし其仕佛は便宜五日毎に決濟するも困窮者其他都合ある人々には其日拂ひとすることに決した。

關東方面

東京府の修路工夫表彰

東京府に於ては道路愛護觀念の作興方法として、大正十四年二月府令を以て道路の維持を沿道の住民及市町村長に負はしめ、爾來之が實行の督勵に努めたが、實績の見るべきもの尠き爲府に於ても事情の許す限り之を援助することとし、直接其職に當る工夫の意氣を振興して作業の能率増進を計

るべく客年十一月訓令を以て修路工夫の獎勵規程を制定し、道路の維持修繕優良なる

受持組を表彰するに決した處何れの組も第一回の榮譽を得んと、道路の修理に精勵努力した結果、路面の状況は全く舊態を一新し本年一月土木部内各課長及關係技師、主事に審査員を命し、審査會は審査の結果左記の優良組を表彰した。

一等賞 品川土木出張所勤務

組長工夫 根 伸太郎外三名

二等賞 同 所 勤務

組長工夫 加藤 鶴吉外三名

一等賞 淀橋土木出張所勤務

組長工夫 石田 梅吉外四名

二等賞 同 所 勤務

組長工夫 山崎紋右衛門外三名

一等賞 板橋土木出張所勤務

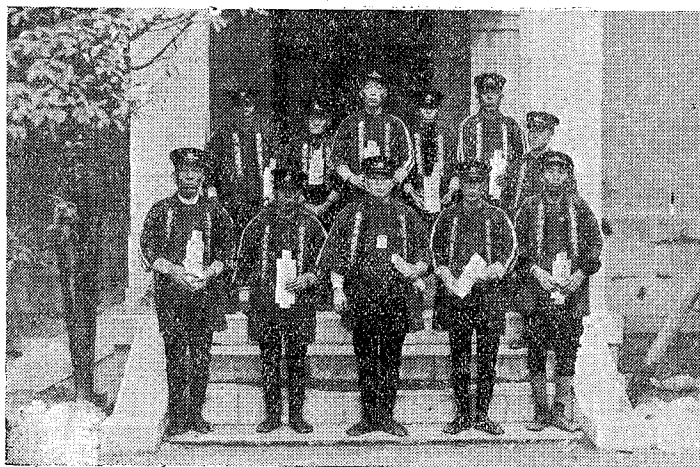
組長工夫 山田清次郎外三名

二等賞 同 所 勤務

組長工夫 濱中嘉平次外三名

一等賞 千住土木出張所勤務

組長工夫 野邊 嘉一外三名



一等賞 府中土木出張所勤務

組長工夫 細淵 秀吉外三名

一等賞 青梅土木出張所勤務

組長工夫 川杉榮三郎外三名

一等賞 八王子土木出張所勤務

組長工夫 青木清次郎外三名

其ノ受持區域内ニ於ケル道路ノ維持修理ニ力ヲ致シ成績優良ナリ仍テ一、二等賞金(參拾圓)(貳拾圓)ヲ授與シ茲ニ之ヲ表彰ス

昭和六年二月十七日

東京府知事從三位勳四等牛塚虎太郎

二月十七日之が表彰式を午前十時より正廳に於て各審査員、土木部内高等官並各課主任及各土木出張所長列席の上嚴肅に行はれ、金子道路課長の舉式の挨拶と審査報告ありたる後、來島土木部長より各被表彰組の組長に、表彰狀及賞金目錄を授與し將來益々道路の維持修理に努むべき様訓示ありて閉式した。尙表彰規程の内容は左の通りである。

東京府訓令第十六號

知事官房

内務部

土木部

修路工夫並常夫獎勵規程左ノ通定ム

昭和五年十一月一日

修路工夫並常夫獎勵規程

第一條 道路ノ維持修繕ニ從事スル工夫並

常夫ノ組ニシテ其ノ受持區域内ノ道

路ノ維持修繕ノ狀況優良ト認ムルモ

ノハ本規程ニ依リ之ヲ表彰ス

第二條 土木出張所長ハ常ニ其ノ管内ニ於

ケル受持組ノ實務ニ對スル常時ノ用

意並態度及道路ノ維持修繕ノ實況等

ヲ觀察シ其成績ヲ考查スヘシ

第三條 土木出張所長ハ前條ノ規定ニ依リ

考查ノ結果表彰ノ必要アリト認ムル

組アルトキハ毎年六月十二月末日現

在ニ依リ其成績調査書ヲ作製シ順位ヲ

附シテ翌月十日迄ニ之ヲ知事ニ報告

スヘシ

第四條 知事ハ前條ノ成績ヲ審査評定セシ

地方通信

ムル爲ニ審査會ヲ置ク

第五條 審査會ハ會長一人委員若干名ヲ以

テ之ヲ組織ス

第六條 會長ハ土木部長ヲ以テ之ニ充テ委

員ハ道路知識ヲ有スル者及ビ關係職

員ノ中ヨリ知事之ヲ命ス

第七條 審査ノ結果成績優良ナル組ニハ每

年度豫算ノ範圍内ニ於テ左ノ賞金ヲ

授與ス

一等賞 金參拾圓

二等賞 金貳拾圓

第八條 本規程ノ取扱手續ハ別ニ之ヲ定ム

東海方面

庄川線縣道の改修

岐阜縣郡上郡庄川筋の縣道改修工事は、

積雪尺餘に達し工事不能となり僅かに高鷲

村站立地區内に於ける鑿岩工事及び同村中

條地内の屈折工區の作業中なるが、愈々雪

も融けて地面を表はし始めたので白鳥より
牛丸に至る延長八里の改修に着手すること
し四月中に用地の買収、五月上旬より本
格的に工事に移る豫定で白鳥、牛丸間に架
設すべき橋梁の設計も近日中に完成し本省
に認可申請の手續をとる筈である。

揖斐長良の工事進む

往昔七里の渡と云つて東海道行脚の旅人
を悩ました揖斐、長良、木曾の三大川は今や
三重愛知兩縣の協力に依り交通機關に劃時
代的の進化を示すも近き將來となつたが三
重縣關係の揖斐、長良二大橋は來る五月中
旬には橋脚工事完く竣成する豫定である。

昔思へば陳摩の義士平田靱負を自刃せし
めた外、幾多の血と涙を流さしめた三大川
に始めて新橋架設のハンマーを入れたのは
昨昭和五年の十月六日であつた、爾來工事
用一切の準備を整へて十一月二十九日始め
て潜函沈下に着手し一時に三臺宛沈下し得
る準備を爲すと共に揖斐長良兩川壙中島堤

防に空氣壓搾設備を施し橋長二百數十米の新橋に要する十四基の橋脚工事は開始された、其一基の所要工程は干潮面二十五米の水深迄沈下するもので努力は延人員三千人を要し十八九日間で規定の深さに達し潜函夫は九人乃至十人宛二十五米の水底で働く事十日餘宛を要するのである、此等潜函夫を惱ます潜函病は一ヶ月七十件を算して居る、脊髄病質や癩黴毒性の保菌者が此れに罹るときは生命危険に陥るほど重症となる、普通人は二三時間で大底治癒するが其の治療室は恰かもボイラーの形したる中にケーソン内の氣壓と同程度の氣流を湛へ、其の中に潜函病に罹つた患者を入れ除々に平癒に復さしむるもので三四名の醫師を交互治療に従事せしめて居るが遠からず此の犠牲的の慘苦は酬ゐられ東海道國道の交通に新威容を示すであらう。

近畿方面

失業救濟國道改良延長

六年度公債支辨による内務省の失業救濟國道改良事業中直ちに着手すべき京都、滋賀、三重、和歌山各府縣に於ける箇所及延長は、京都市蹴上より宇治郡山科町宇日ノ岡に至る長一千三百米、三重縣桑名郡西桑名町より同郡城南村安永に至る二千三百六十八米滋賀縣大津市上片原町より同市一里町に至る一千二百九十米、和歌山縣海草郡野崎村北島橋北詰より同郡志貴村字中に至る六千七十五米、和歌山縣那賀郡岩出町大字清水より同郡長田村大字深田に至る六千米等である。

奈良縣千石橋渡初式

吉野站と院本義經千本樓で名ある吉野川そこに架せる千石橋の渡初式は一月二十五日午前十時より奈良縣吉野郡下市町の同橋々詰で盛大に擧式された、修祓、降神、獻饌の後齊主の祝詞並に關係者の玉串奉奠あ

りついで、知事の式辭、土木課長の工事報告、縣會議長、千石橋架替協賛會長、町村長總代、縣會議員其他關係者の祝辭ありて同十一時三十分閉式、三組の渡初家族と下市、大淀兩町小學校兒童四千名夫れに來賓三百名の渡初めがあり、終つて同橋詰料亭、吉野山水の大廣間で盛大な祝賀宴を張つた。由來、本橋は、府縣道下市御所線左岸奈良縣吉野郡下市町大字下市、右岸同縣同郡大淀町大字下淵に位置し兩町は、この奥地即ち同郡天川、黒瀧、丹生、白銀、秋野各村と聯絡して有名な吉野木材搬出の要路に衝つて居る、従つて之れが産業に及ぼす影響の甚大な事は言を俟たない。

本橋は總工費拾九萬七千五百圓（上部工トラス三連九萬七千六拾四圓、下部工三萬五百四拾四圓、高欄並に親柱臺萬四千七百八圓橋床並に取付道路臺萬八千四拾五圓其他）にして今工事の概要を記せば、本橋の起工は昭和四年九月で竣工したのは昭和六年一月である、此の橋長は百八十米六十釐

(一徑間五九、四米參連)で幅員は有効幅員五十種を有し構造の主構は「ローレン型」曲肢構桁で鋼材より成り橋面路床は厚十四種の鐵筋混凝土床版を以てし其上に厚五種の「アスファルトブロック」の鋪裝を施工し橋脚は鐵筋混凝土にして基礎の根入は岩盤内深一米五十種で兩橋脚共高さ約十米上、下流に花崗石積を施した、橋臺も亦鐵筋混凝土工であつて基礎は橋脚と同様岩盤に喰込む、高は左岸約五米五十種、右岸約四米八十種にして何れも兩隅に花崗切石を使用してある。また意匠材料に就て見るに親柱及び袖壁は凡て花崗切石を用ひ照明燈は青銅製で勾欄格子は鑄鐵とし同笠金物は引拔鋼管を使用し、地覆は混凝土表面塞水石洗出仕上である。今其の主要材料使用數量等に就て見るに鋼材總重量四一五種、鐵筋總重量上部工二六種、下部工三一種、「セメント」總重量上部工三六種、下部工一四四七種で設計荷重の群集荷重は一平方米に付四八八疋、自動車荷重は六種、風壓は動

地方通

荷重載荷弦長一米に付四〇〇疋。動荷重無載荷弦張一米に付二〇〇疋。地震加速度は毎秒二〇〇〇耗である。(口繪寫眞參照)

中國方面

突道湖岸の遊覽道路

八十萬圓で築造

風光明眉を誇る突道湖岸に遊覽道路を築造して觀光客を誘引し安來節を聞きながらドライブ出来るやうにし財布の紐を緩めて類冠り跣足しといふ贅掬姿で歸へさうと松江市が三年越しの計畫が完成し内務省に道路築造の認可を申請中であつたが愈々許可となり多年の懸案は茲に芽生へることになつた併かし同遊覽道路は八十萬圓貳十箇年後に完成といふ氣永いものであるから尙ほ當分の間は財布を空にして歸る觀光客も尠からう尤も財源さへ見つかれば三十間幅の小公園式遊覽道路を兩三年間に造り上げた

いといつて居る。

九州方面

福岡縣下の國縣道

改修準備着々成る

福岡縣下海老津、赤間間九千米、雜飼隈、二日市間七千米の國道改修は内務省直營で工事を施行するといふことになつたが其の準備は既に成り之れに使用する人員は三八萬七千五百人の豫定である。また嘉穂郡穗波村天道より鏡西村潤野に至る縣道改修工事は昨年七月より着手して居たが此程潤野小正間が竣工したので本年度よりは小正より辨分を経て椿まで改修する豫定で其の準備は既に出来て居るから近かく起工の筈である。

六角橋工事竣功す

佐賀縣杵島郡小田村と六角村を繋ぐ六角

橋は工賃十八萬圓を以て昭和三年三月起工以來滿三年漸く完成を見るに至つた、新橋は幅員四間、中央に百七十尺、其の前後に八十五尺宛三個のトラスがあり、兩端に六十尺宛のプレートガーターを有し全長四百六十尺の鐵橋で橋面は鐵筋コンクリート上をシートアスファルトで鋪裝してあり、工事は佐賀縣松尾組で請負つたのであるが最初は地盤軟弱で橋脚が傾倒し憂慮されたが其後順調に進み地方は非常に喜んで居る。

失業者に訪づれる春

久留米に於ける失業救済の國道二號線鋪裝工事は着々進み野中町に縣土木管區事務所の出張所を設け毎朝仕事に有つける喜びの失業者等が續々と集まり早い者から順々に仕事に就いて働いて居る、工事の最盛期には各方面の人夫二百名を要し材料運搬車輛も三四十臺を使用する豫定で久留米地方の失業者にも春が回り來る譯で前景氣と人氣も幾分引立つて來たが現在の工事は五月

中に終了し引續き六年度救済事業の元電車通鋪裝に移る豫定である、また大牟田に於ける縣道の路面鋪裝工事も既に開始され失業苦も漸次減少の傾向にある。

戸畑牧山泥田間縣道工事

戸畑牧山、泥田間縣道開鑿工事は三月十九日から着手されたが該工事の設計と監督は縣當局に於てなし、工事施行は市當局が之に當る筈であるが目下の處家屋移轉未済の箇所尠からず、且つ幸村より泥田間に架設するオーバーブリツヤ即ち九軌電車の跨線橋を挾んで建設する最新式の鐵橋は僅々二十餘間のものなるも八萬餘圓を要すべく工事も多少暇取るものと見られて居る。尙戸畑市の失業者救済事業として、五六兩年度の起債四十七萬六千圓中五年度分に對し三月四日内務大臣の認可があつた。

九州地方道路使役者數

公債支辨によりて實施する失業救済道路

改良事業費總額は國府縣道を合して三千六百五十萬圓で、之れによる使用労働者延人員は總計一千三百七十餘萬人に達し事業施行個所は國道府縣道等全國各府縣に亙つて居るが、其の内國道は奈良、岐阜、青森、山形、福井、富山、鳥取、島根、徳島、香川、大分、佐賀、宮崎、高知の十四縣を除き十三府縣及び北海道の國庫補助額の割當は各地方の失業狀況及び事業を標準として配當し國道は内務省に於て府縣道は府縣知事をして執行せしむるもので九州各縣に於ける使用労働者豫定數は次の如くである。

縣名	國道使用人員	府縣道使用人員
福岡縣	三八一、二六七	三八七、五〇〇
長崎縣	二一五、六三三	一一六、六六七
鹿兒島	一一一、〇五九	六七、〇八三
熊本縣	一一二、六一七	六二、五〇〇
沖繩縣	一四、三二五	七、九一七
佐賀縣	—	一七〇、八三三
大分縣	—	一六六、六〇七
宮崎縣	—	四一、〇八三